

老若男女、各分野で活躍するさまざまな「四日市人」取材して、その人の言葉で四日市の魅力などを読者に伝えるコーナーです。

■CTY「ちゃんねるよっかいち」でも紹介します。

放送日時：6月11日～7月10日
月・水・金・日 9:30・20:30
火・木・土 12:30・20:30

■FMよっかいちで毎月第2・第4日曜日放送の「よっかいちわいわい人探訪！」でも紹介します。

放送日時：6月12日・26日 8:54・14:54



近藤賢次さん・川村緑さん

博物館ボランティアとして常設展「時空街道」の案内人を務める傍ら、四日市空襲の語り部としても活動されている川村緑さんと近藤賢次さんにお話を伺いました。

○四日市空襲、その日

(川村さん) 母と姉、姉の子、妹と暮らしていた私は、当時17歳でした。昭和20年6月17日の深夜、最初の警戒警報が発令されましたが、いったん解除されたため、「よかった。今日は来ない」とほっとしながら自室へ。装束と荷物はそのままウツウトしていたところ、2回目の警戒警報が発令。母が「家に爆弾が落とされた！さあ防空壕へ！」と叫ぶ声で目覚め、急いで妹の手を引いて玄関を出ようとした。前には母と赤ちゃんを抱いた姉の背中が見えましたが、そのとき目の前に焼夷弾が落下。波が押し寄せるように火が広がっていきました。

逃げ込んだ防空壕の中には、近所の人など大勢が集まり、息苦しい中でただ「明日まで生きていたい」と身を潜めていました。しばらくたって外に出たときの光景は、今でも忘れられません。庭木全てに火が付き、台所や玄関も燃え尽きてしまうようでした。

屋敷の石垣を乗り越えて裏の田んぼに逃げ、屋敷の2階がぼんぼんと燃えるのを見た後、あぜ道をとぼとぼ歩いて叔母の家へ向かいました。母と姉と妹は無事でしたが、姉の赤ちゃんの命が失われました。

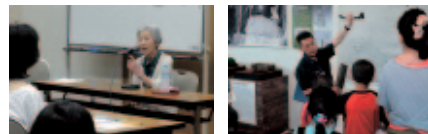


◀四日市空襲殉難碑(鶴の森公園内)
昭和20年6月18日、本市は大規模な空襲に見舞われ、800人以上の市民の尊い生命が奪われました。

(近藤さん) 四日市空襲を経験したのは小学校3年生のとき。「空襲だ！避難しなさい！」という声で両親と3人で近くの広場の防空壕に逃げ込みましたが、先に入ってい

た人でいっぱいでした。「ここにいると危ない」と教えてくれた人がいたため、燃えて崩れる家々に挟まれた狭い道路を南へ向かいました。水があって周りに燃えるものがない田んぼに逃げ、あぜ道に座り込みながら、市街の方角が赤く燃えているのをただ見つめるだけでした。

朝方に火は収まりましたが、余熱ですぐには近寄れません。市街は焼野原となり、防空壕も焼けてなくなっていました。防空壕の中から逃げたくても逃げられず、大勢の人が生きたまま焼け死んでいったことを思うと、今も胸が痛くなります。



博物館の「四日市空襲の話聞こう」で体験談を語る2人

○若い世代に向けたメッセージ

(川村さん) 戦争は天災と違い、人が起こさなければしなくて済むものです。戦争になれば赤ちゃんまでも巻き添えになります。子どもたちには大人になってもこの体験談を思い出してほしいと思います。

(近藤さん) 四日市空襲や戦争の悲惨さを知り、当たり前と思っている平和な生活がいかに大切なものであるか、改めて考えてください。

学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」

日時：平成28年6月14日(火)～9月4日(日)

場所：そらんぼ四日市(博物館)3階

時空街道展覧処「白里亭」

【問い合わせ】博物館(☎355-2700 FAX355-2704)



有料広告掲載欄

生まれ育ったまちで 憧れの幼稚園教諭&保育士をめざす

ユマニテク短期大学

HUMANITEC JUNIOR COLLEGE

幼児保育学科

学校法人大橋学園 短期大学設置準備室
法人本部:〒453-0013 愛知県名古屋市中村区亀島2-6-10

平成29年4月
近鉄四日市駅徒歩圏内に
開設予定
(設置認可申請中)

所在地 〒510-0066 三重県四日市市南浜田町4-21(予定)

学校説明会 平成28年6月25日(土)
10:00~11:30 受付9:30~
四日市市文化会館 第4ホール

☎059-356-8170

本欄は広告であり、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。